

多摩市自治推進委員会の実績について

【第一期】

「行政評価への市民参画の手法について」をテーマに、当時試行中の行政評価を土台として「多摩市自治基本条例」に規定された評価への市民参画の観点等から、行政評価の手法等の標準的な指針について提案しました。

【第二期】

今後の自治の推進に寄与することを目的として、行政評価に限らず市民の行政への参画の実態を明らかにするために、「多摩市市民参画白書」を作成し、市に提出しました。

【第三期】

市民参画の中でもコミュニティ自治の重要性に着目し、「コミュニティの推進に向けた検討報告書」を作成し、多摩市のコミュニティ自治を推進するために何らかの仕掛けが必要であるという統一的な結論を得ました。仕掛けを何にするかまでは定まりませんでした。その仕掛けをコミュニティで話し合う場を設ける第一段階、必要に応じて課題を解決する組織を作る第二段階に分けて検討しました。

【第四期】

コミュニティ自治推進の一つの手法として常設型の住民投票制度と個別設置型の住民投票制のメリット、デメリットの検証、先行事例の研究を通し、多摩市における住民投票制度のあり方について検討し、「住民投票制度のあり方についての検討報告書」を作成しました。

【第五期】

「みんなが笑顔になる地域社会のあり方」をテーマに、市民自らがまちの自治を担う存在になるために一歩踏み出すことを目的として報告書「たまおが行く～多摩市の自治ものがたり～」を作成しました。より多くの方に気軽に手にして読めるように、これまでにないガイドブック風の編集とし、市内の書店でも販売しました。

【第六期】

自治推進委員会発足から10年以上が経ち、社会状況の変化が生じている現状を踏まえ、地域活動への参加及びコミュニティ活動の活性化の視点で、「地域活動に対する『気づき』と『きっかけ』の仕掛けづくり」をテーマとして議論をしました。市民や地域活動団体へのアンケート等を通じて、情報発信と団体運営の仕方が、地域活動団体側とそれを受け取る市民側でミスマッチが生じていることが明らかになりました。このミスマッチの解消に必要な、情報発信と団体運営づくりで考慮すべき具体的な考え方を報告書としてまとめました。